

科 目 名

学校カウンセリング School Counseling

2年 後期 2単位 選択

小 原 守 雄

概 要

学校現場において個別的支援を必要とする生徒は極めて多い。学校カウンセリングは、一人一人の生徒を理解し援助することを研究する学問である。具体的な領域として、教師と生徒との関係性、支援の方法、目標、留意点などを取りあげ、教師として、面接の方法や支援方法の理解を深め、さまざまな場面での対応技術を向上することをねらいとする。

目 標

教師として、危機や不適応状態に陥った一部の生徒を対象とするのではなく、すべての生徒に対して、この理解を図ると共に基本的な支援技術を深め、演習によって習得できるようにする。
さらには、カウンセリングの手法を応用する学習カウンセリングについても習得する。

授業計画

テ ー マ	内 容
1 学校カウンセリングとは	: カウンセリングの基礎理論、諸調査
2 関係性と面接構造	: 教師と生徒の関係性、面接構造
3 紙上応答法 (4回)	: 紙上応答法を用いて演習の実施
4 ロールプレイ (3回)	: ロールプレイを用いて演習の実施
5 ストレスマネジメント教育	: ストレスとは、対処のしかた、生徒への教育
6 事例検討の方法と留意点	: 事例検討の意義、方法、留意点
7 学習カウンセリング	: 授業の中でのカウンセリング技法
8 ガイダンスとカウンセリング	: ガイダンスとの相異点
9 学校カウンセリングと倫理	: 遵守すべき倫理項目

授業方法

講義および演習を行う。授業終了時に、授業のまとめや交流を図るために「フィードバック票」を活用する。なお、毎回5分間の「簡易瞑想法」の演習を行なう。

学習到達度の評価

定期試験、フィードバック票によって学生の理解度を把握する。

評価方法

定期試験 (50点)、フィードバック票から (30点)、演習 (20点) の合計で評価する。
60点に満たなければ、レポートの提出を求める。

教 材

教科書：上地安昭 著 「学校教師のカウンセリング基本訓練」 北大路書房 (2,000円)

履修上の注意

時間厳守。挨拶の励行。演習を実施するため積極的に参加して欲しい。
基礎心理学や学校カウンセリング関連の読書達成を求める (リストは授業時に配付する)。